

# “ここ”で繋がる、みんなの居場所

— ヤングケアラーの子どもたちが過ごしやすい環境づくりに —

井澤研究室 A20AB089 永井未夢



他者のケアを受けながら家族と過ごせる場所  
ひとりでこもってくつろげる場所  
同じ境遇の子や地域の人、隣地の小学生が繋がれる場所  
これらを小さな集合体のように設計をした。



## 背景

### 学業

家事や介護などに時間を取られてしまう。

勉強時間を確保できないため、希望の学校に進学できなかったり、進学を断念しなければいけなかったりする子どもが出てきてしまう。

子どもの学業に影響を及ぼすことは、将来の可能性を潰し、人生を左右してしまう恐れがある。教育を受けていないことが、将来の所得の差に結びついてしまうケースが多い。

### 交友関係

家族の世話や家事に時間を取られ、放課後や休日に友人と遊ぶことができない状況。

友人や教員など、外部の人間と接する機会が減り、コミュニケーション能力の欠如に陥る可能性が高まる。

家事労働に追われるばかりに、友人との共通の話題にずれがでる、部活動に参加できないため選手に選ばれないなど、孤立を招く。

### 生活リズム

健康状態が良くなかったり、遅刻・早退の割合は、世話をしていない人の2倍以上。

「授業中に寝てしまう」「宿題ができていない」「忘れ物が多い」「提出遅れが多い」

→日常生活に支障が出てきている

遅刻、欠席が多いなどで叱責を受けてしまい、信頼関係が重要な教育者との関係の構築が難しくなる場合もある。

## 目的

ヤングケアラーである子どもたちが健やかな成長と教育の機会を得られ、子どもたちが介護・世話をしている家族に必要な福祉サービスを届けられるような住空間の提案をする。

### 定義

「ヤングケアラー」とは、家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている、18歳未満の子どものこと。



・障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている  
・家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている  
・障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている  
・目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている  
・日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



・食料を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている  
・アルコール・薬物・キャンセル問題を抱える家族に対応している  
・がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている  
・障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている  
・障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

出典  
一般社団法人日本ヤングケアラー連盟

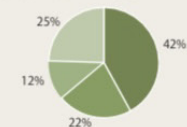
## 対象者の実態

家族の世話をしている中学生の割合



公立中学2年生の5.7%(約17人に1人)

世話に費やす時間について



■ 3時間未満 ■ 3-7時間 ■ 7時間以上 ■ 無回答

世話を始めた年齢



平均 9.9 歳

ヤングケアラーの認知度と自覚について



自分はヤングケアラーに当てはまる

約 2%

・把握している ・把握していない

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援



■ 全日制高校2年生 ■ 中学2年生  
出典  
ヤングケアラーと家族を支えるプログラム(日本財団) ヤングケアラーの実態に関する研究報告書(文部科学省)  
ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)

## 事例調査

ケアラズカフェ① (2023年7月現地調査)

とりんハウス 介護相談や専門職相談をはじめ、家族介護者の支援を総合的に行うカフェ型の常設拠点

事業 ・常設の居場所運営 7:00~16:00 介護者が行きたいときにに行けるように。

- ・家族介護者のつどい(15人くらい)
- ・相談事業
- ・介護情報の収集・提供
- ・介護保険事業・デイサービスとりん村

- 利用者
- ・70代7割 40~60代が3割(親の介護)
  - ・当事者同士の方が親身になって話ができる。
  - ・世話をする人 見なければならぬという義務
  - ・不健康を自覚していない→目に見えない負荷(身体・心)

ケアラーの今後の課題

- ケアラーは介護だけの問題じゃない。 →ケアの負担がかかりグチャグチャなこと(身体・心)を紐解いていく場
- ケアラーだったことが無駄なことではない。 →自分しか体験できなかった経験 →ヤングケアラーだった人たち(高校生・大学生)と一緒に過ごして自覚できる場
- プライベートが守られる場が必要。 →清潔が守られる環境(収納、片付け)
- ヤングケアラーの子どもたちは利用していない →子供が子供らしく過ごせる場を提案する



ケアラズカフェ② (2023年9月現地調査)

サンタの笑顔 ケアラーの人たちの集いの場・たまり場であり、ケアラーのみならず地域の皆さんが通える場

事業 ・命のバトン(平成22年~)/在宅サポーター(平成23年~)

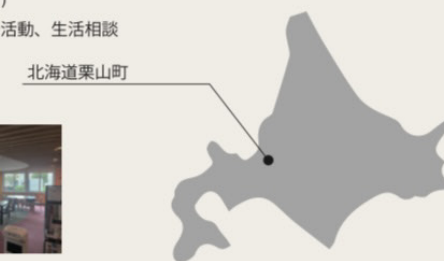
- ・サンタの笑顔(ケアラーサポーター、ケアラーアセスメント)
- ・仲間づくり、講座の受講、生きがいづくり、趣味のサークル活動、生活相談

- 利用者
- ・1日10~20人くらい
  - ・介護保険の相談、手続きの仕方、ケアマネからの相談



ケアラーの今後の課題

- ケアラーに限らず暖かい目、優しい目を増やそう →ボランティアに参加したり、見守りをする場
- ケアマネも家族のことを見て支援しよう →介護保険制度に世間が深く踏み込めるか(給料アップ) →他人の負担が減る
- 寄り添える環境が必要 →相談が気軽にできる場
- ヤングケアラーの子どもたちは利用していない →ボランティアでの塾を作る、交流の場



# インタビュー調査

## 目的

現状として今の子供たちの中にヤングケアラーの人はいるのかを確認し、学校側の対応を知ることで、学校側では困難なことを明確にし、設計に取り入れる。

## 調査結果



愛知県稲沢市勤務  
4年目  
男性

ヤングケアラーについて知っているか

知っている

実際にヤングケアラーの児童はいるか

いる

教員・学校としてヤングケアラーに対する対応はできているか

できていない

具体的に何ができていないと思うか

家庭環境の事なので深く関わっていいのか判断が難しいところがある。児童の服装や体調面では、常に見ており、声かけなどは行なっている

保護者との連絡が全く取れない状態のため、家庭との連絡が取れていない

教員・学校では困難なことはあるか

ある(学校内の事ではないので気になっていても対応には限界がある。)

ある(家庭での問題(夫婦間、親子間)から来る子どもへの対応。)

ケアラーの子どもに対して、学校の連携はされているのか(ex. 幼小中、職員同士)

取れている(定期的に対策委員会などを行い、児童の現状などを報告している。)

取れていない

教員・学校としてヤングケアラーに対する課題点について

学校が1番児童と関わり異変に気付いてあげることが出来るが問題が起きてからではないと家庭には踏み込みづらい。心理カウンセラーの人数が少ないのでそういった児童の心理的不安を減らすために各学校1人を配置できるような人数を増やしてほしい。

家庭の問題に介入することに難しさがあるため、手伝いとヤングケアラーの違いが明確化されず、判断がつきにくい、対応がしにくいところがある



大阪府大阪市勤務  
1年目  
女性

ヤングケアラーについて知っているか

知っている

実際にヤングケアラーの児童はいるか

いる

教員・学校としてヤングケアラーに対する対応はできているか

できていない

具体的に何ができていないと思うか

家庭環境の事なので深く関わっていいのか判断が難しいところがある。児童の服装や体調面では、常に見ており、声かけなどは行なっている

保護者との連絡が全く取れない状態のため、家庭との連絡が取れていない

教員・学校では困難なことはあるか

ある(学校内の事ではないので気になっていても対応には限界がある。)

ある(家庭での問題(夫婦間、親子間)から来る子どもへの対応。)

ケアラーの子どもに対して、学校の連携はされているのか(ex. 幼小中、職員同士)

取れている(定期的に対策委員会などを行い、児童の現状などを報告している。)

取れていない

教員・学校としてヤングケアラーに対する課題点について

学校が1番児童と関わり異変に気付いてあげることが出来るが問題が起きてからではないと家庭には踏み込みづらい。心理カウンセラーの人数が少ないのでそういった児童の心理的不安を減らすために各学校1人を配置できるような人数を増やしてほしい。

家庭の問題に介入することに難しさがあるため、手伝いとヤングケアラーの違いが明確化されず、判断がつきにくい、対応がしにくいところがある

# アンケート調査

## 目的

実際にヤングケアラーだった子供に対して、子供の頃何をして欲しかったかを明確にし、設計に活かせる部分を見つける。



ヤングケアラーについて知っているか



ヤングケアラーだったと感じるか



お世話をするきつさを感じていたか

→感じていた

就学の制限はあったか

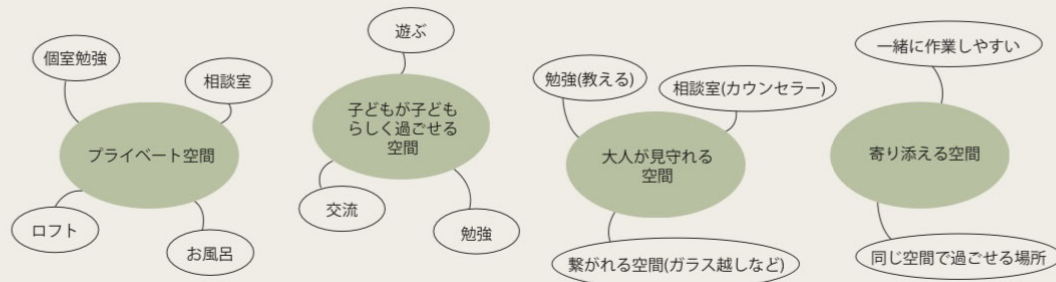
→あった

# コンセプト

「ここ」で繋がる」には、3つの繋がるの意味が込められている。ヤングケアラーのみで孤立せず、多くの人が繋がり、過ごせる場を提案する。



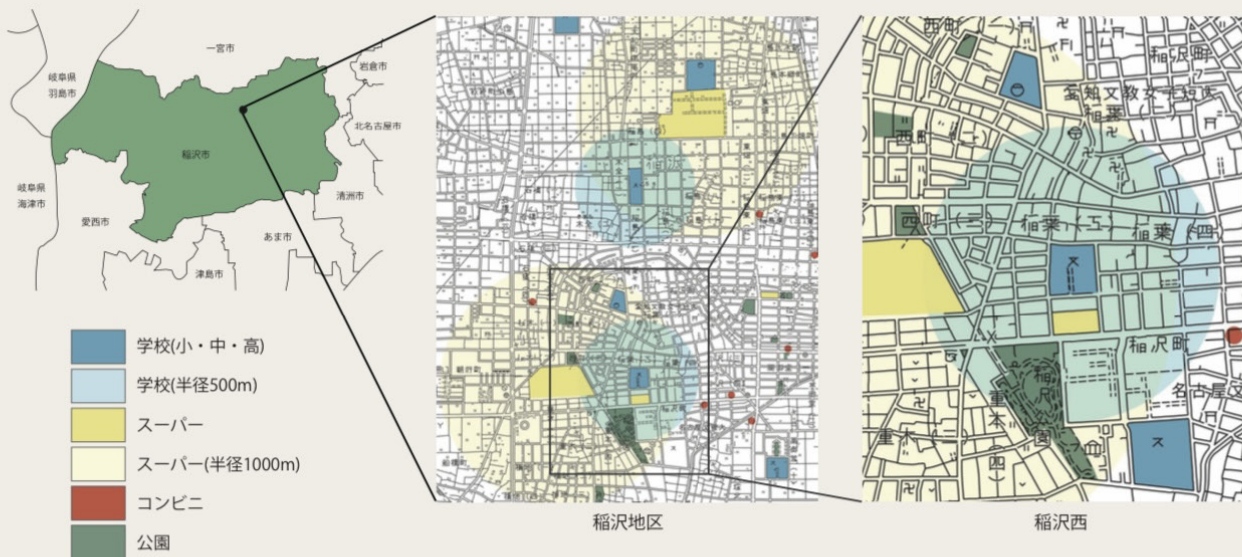
# 調査からみえる必要な空間





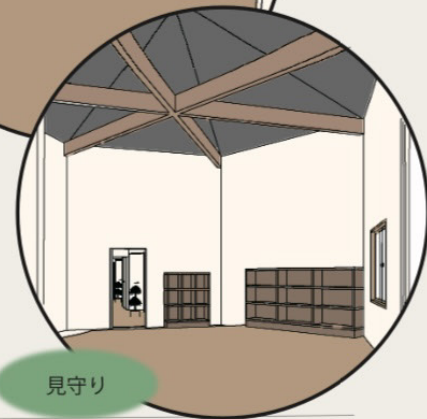
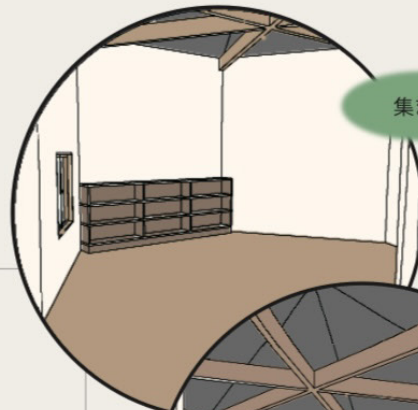
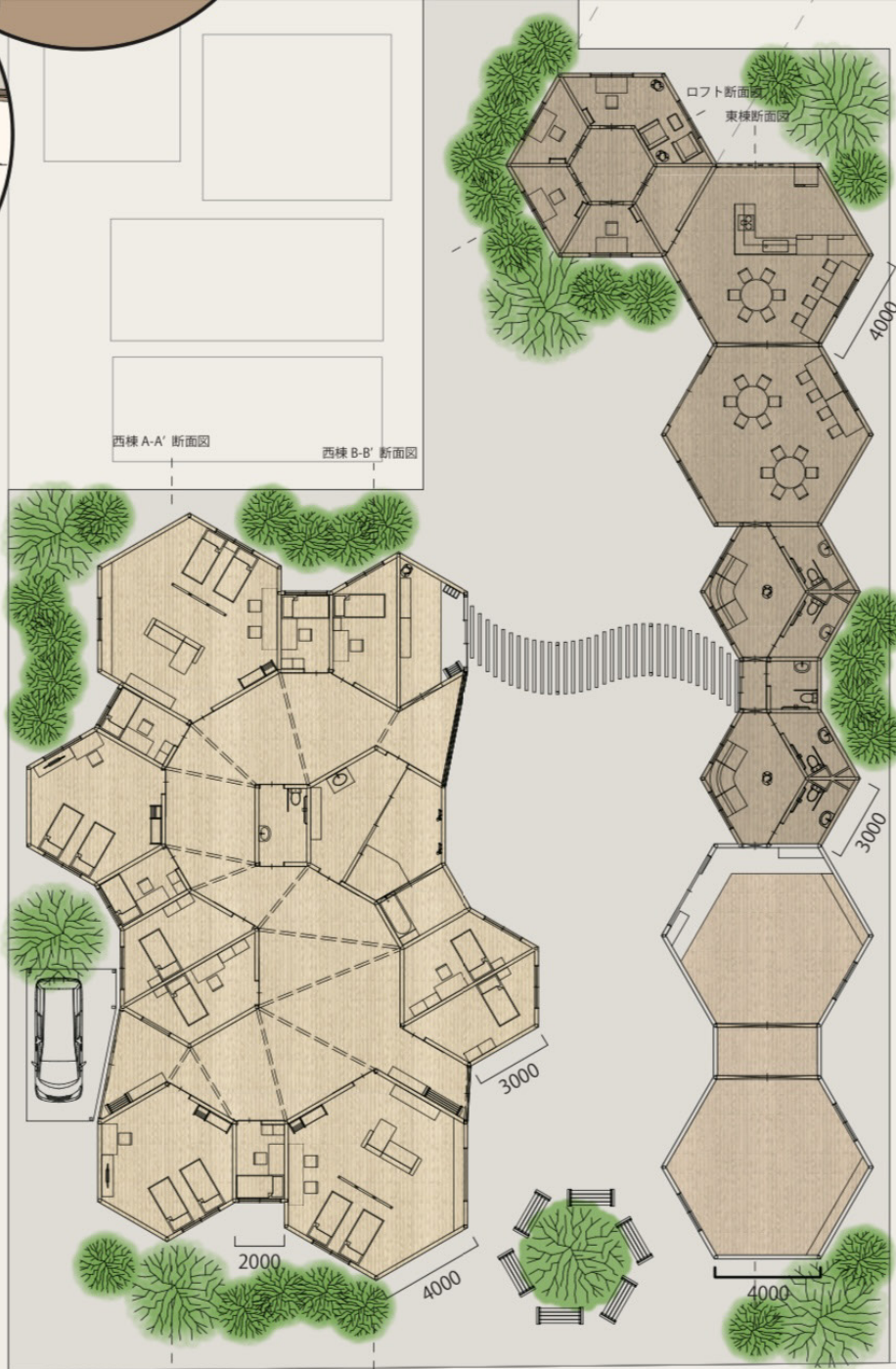
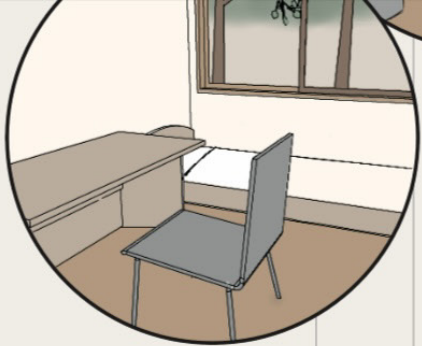
# 敷地

愛知県稲沢市を対象とし、徒歩圏内に小・中学校がある住宅街で、スーパーや薬局が子どもでも通える範囲にあり、子どもたちが相談できる場、集まれる場を作ることで、ヤングケアラーである自覚を持ち、自覚した上で子どもらしく過ごすことができる場所である小学校の隣地、稲葉地区を選定した。



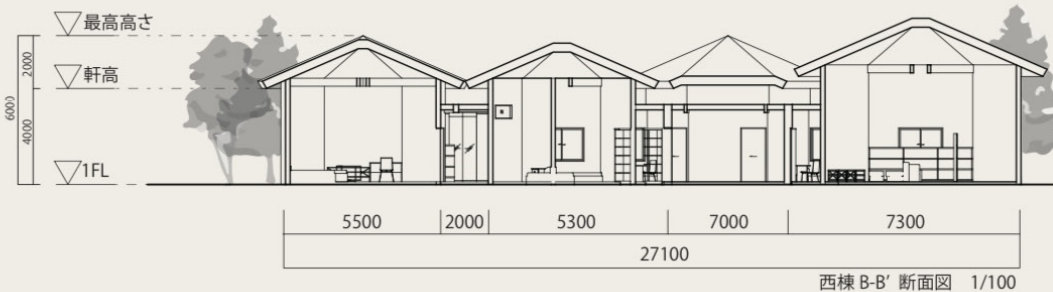
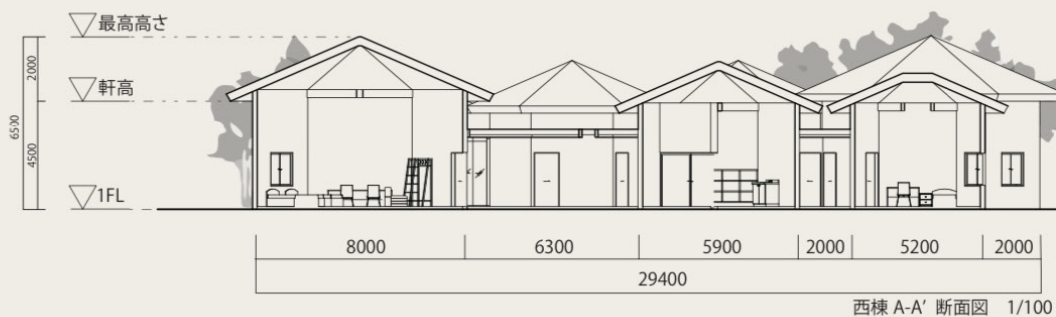
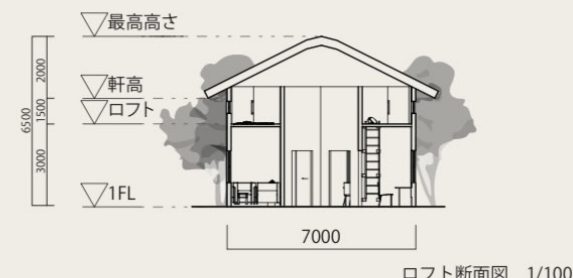
# 平面図







# 断面図



# 立面図

